

# まんなさく



## 大学院(看護学研究科看護学専攻・修士課程)の設立

学長 難波 正義

二〇一三年十月三十一日に、大学院設置の認可がおりました。二〇一四年四月に開校します。大学に大学院ができて一人前といわれるので、これで新見公立大学看護学部も一人前になりました。二〇〇二年に私が学長に就任して、この一人前の大学ができるのに十年が掛かっています。

この間を振り返ってみると、第一に看護学科の教員の方々の懸命な努力がありました。二〇〇四年に地域看護学専攻科を設立したときは、外部から優秀な教員二名をリクルートしましたが、その後、看護学科の四大化、今回の大学院設立は、ほとんど内部の教員の力でできました。もともと本学の教員の教育力は高く評価されていました(ベネッセ発行の「大学比較マルチバンク二〇〇二」の冊子に、中国・九州・四国地域で、本学の資格取得力リキラムの充実度第一位、就職支援度第二位、就職率100%)。ただ、大学が四大化し、さらに大学院までできると、教員には高い教育力のみならず、高い研究業績も要求されます。それは、優秀な大学院生を育てるために必須です。

したがって、私も教員は一層の研鑽を積み、質の高い研究を基礎にして、本学の従来の優れた教育をさらに向上させる決意です。

発刊 新見公立大学・短期大学 (岡山県新見市西方二二六三の二) ☎〇八六七―七二―〇六三四

編集 学報編集委員会

## 私の研究コーナー

### 第二十回国際老年学会ソウル大会

看護学部 講師 矢嶋 裕樹

六月二十三日〜二十七日に韓国ソウル市江南区のCOEXで開催された第二十回国際老年学会ソウル大会(The 20th IAGG)に参加し、

Associations between Professional Help-Seeking Attitudes and Behaviors among Japanese Family

Caregivers of Frail Elderly (日本の高齢者家族介護者における専門家に対する援助要請態度と援助要請行動の関連)という演題で発表をいたしました。高齢者家族介護者を対象とした実態調査によれば、介護上の悩みや問題を抱えながらも専門家に適切な援助を求めない、あるいは求めることができない介護者が少なくないことが示唆されています。高齢化や過疎化に伴い、介護者の私的支援体制がますます脆弱化する中、専門家から適切な援助を受けることができなければ介護者はよりいっそう孤立し、高齢者虐待や自殺などのより深刻な事態に至る危険性があります。こうした問題を解決するための糸口を得るため、文部科学省科学研究費の助成を受けて、家族介護者を対象に二度の調査を実施いたしました。今回は、初回に実施した調査データに基づき、援助ニーズがあるにもかかわらず、ケアマネジャーなどの専

門家に必要な援助を求めない、あるいは求めることができない態度要因として、介護者の被援助不安、とりわけ「Fear of expressing emotion to professionals (自己開示不安)」が強く関与していることを報告いたしました。短い間でしたが、当該分野の最新の研究を見聞できたこと、本学会の参加者らと議論を交わしたことは、今後の研究活動を進めるうえで大変有意義な体験となりました。



絵・飯田末歩

## 学友会

執行部だより

### 学友会活動について

新学友会長 看護学科一年 角 幸歩

十二月十四日に学友会主催でクリスマス会を行いました。クリスマス会ではバンド演奏、部活ごとの出し物、カラオケ大会、ビンゴ大会などを行い、とても盛り上がりました。友達と共にケーキを食べ、話をすることで学生の皆さんには日頃の疲れを癒す良い機会になったのではないかと思います。クリスマス会を滞りなく行うために協力していただいた皆様にはとても感謝しています。ありがとうございました。

学友会は現在、新役員も決まり、



春に行われる新入生歓迎会に向けて準備を進めています。まだまだ足りないことも多いですがよろしくお願いたします。

### クリスマスイルミネーション

今年度も大学法人関係者の皆様のご厚意により、十二月十八日から新年一月六日までの間、イルミネーションが点灯しました。真冬の澄んだ夜空にひととき映える温かい光のフアンタジーでした。



絵・佐藤千明



地域福祉学科

正田がんこじいさんの会と交流

講師 三上 ゆみ

がんこじいさんの会（田口和男会長・会員三十二人）と地域福祉学科一年生有志二十七人が、初めて交流会を行いました。同会は、平成十八年正田学区の六十歳以上で結成されました。

当日は、お豆腐屋さん直伝の「手作り豆腐」や、「うどん打ち」をおこない、一からの手作りするとう貴重な体験が出来ました。お料理や空揚げも一緒に調理することで家事力アップにもつながったかな？地域のいろいろな出来事や、昔のお話を教わることで、学生も



会員の皆さんも笑顔がいつぱいの交流会となりました。

土下座祭りに参加して

一年次生 品部 菜由

私たち地域福祉学科一年生は、十月十五日に挙行された土下座祭りに参加させていただきました。朱鷹たちから先生、吉村先生ご指導のもと、クラスの一人ひとりが慣れないながらも、篠笛や太鼓、鈴の練習を重ねて本番に臨みました。



数に圧倒されながらも楽しく、そしてみんなが一つになって演奏できたように思います。緊張が始まった土下座祭りですが、終われば満開の笑

顔に包まれていた一日でした。

介護フェアでお囃子を披露

一年次生 伊集院 聖乃

十一月十一日は、「いい日、いい日」にかけて「介護の日」です。十一月九日(土)に岡山県総合福祉会館で開催された「介護フェア」に参加しました。岡山県内十校の介護福祉士養成校の学生はアトラクションで参加し、私たち一年生五十七名はお囃子演奏を披露しました。今回のお囃子はステージ発表ということで、土下座祭りでの演奏に満足することなく、さらに完成度の高い演奏を目指して練習をしてきました。本番は、みんなで心一つにし、迫力ある演奏ができ、私自身鳥肌がたちました。

また、この他にも岡山駅で介護の日のチラシ配りなどをして多くの方に啓蒙活動を行いました。介護と聞くとキツイイメージもたれがちですが、多くの魅力があることをこのイベントに参加して学ぶことができました。



絵・末宗成美

母校自慢

第17回

\*島根県立隠岐高等学校

一年次生 松永 ちひろ

私の母校である島根県立隠岐高等学校は、大正二年に創立された西郷町外十一村組合立隠岐女子技芸学校から始まり、高等女学校を経て、昭和二十三年に男女共学の新制高等学校となり、今年で創立百周年を迎える古い歴史と伝統に輝く学校です。周辺は海と山といった自然に囲まれ、恵まれた環境で勉学に励むことができます。

私が思う隠岐高等学校の魅力は、学科に普通科と商業科の二学科があることです。そして、全校生徒が健（健やかにして）智（賢く智り）拓（未来を拓く）を目標に日々努力し進学校でありながらも部活動に励んでいます。学校行事も盛んで、文化祭や体育祭では全学年に壁がなく協力し合っています。隠岐高等学校の卒業生として、新見公立短期大学で学び、将来、私は介護福祉士として故郷に貢献したいと思っています。

# 幼児教育学科

## 「先輩と語る会」で考えたこと

一年次生 加藤 唯香

十二月三日、勝代和子先生（二期生）、瀧本晴美先生（十期生）、佐伯奈徳美先生（二十六期生）、渡部倫子先生（二十七期生）、佐藤ちなつ先生（二十九期生）をお招きし「先輩と語る会」を開催しました。先輩方からは現場のリアルなお話を、さらには激励をいただき、問題意識が深まった一日となりました。

幼児教育学科と聞くと保育者というイメージが強いですが、福祉施設職員、大学への編入学、という選択もあることを再認識することができました。受身で毎日を過ごしていると視野が狭くなりがちですが、自分で切り開けば可能性は無限大だと実感しました。

授業をただぼーっと受けているだけでは何も生まれません。何事にも真剣に向き合い挑戦する営為から、自分の本当にやりたいことが湧き上がってくるはずですよ。とにかく、まだまだ未熟な私たちは、自身の可能性を信じて勉強し、試行錯誤することが肝要なのだと思います。

早いもので学生生活もあと一年で終わってしまいます。残された時間は短いですが、今まで以上にクラスメートたちと友情・信頼を深め、感

動を分かち合っているかと思えます。それは、先輩方が「持つべきものは友」とおっしゃっていたように、人生の中で友達は大きな存在になっていくものだからです。

この新見公立短期大学で、学生である今しかできないことを見つけ、勉強の面でも遊びの面でも思う存分満喫し、青春を謳歌したいと思っています。



絵・藤井理奈

## 初めての保育実習、大きな変化

一年次生 吹野 瑛司

私は新短幼教に入学しましたが、正直なところ、どうしても保育者になりたいという動機は薄かったかもしれせん。子どもが好きだから合っているかも、と自分に言い聞かせつつ、保育について学ぶ日々を過ごしていました。

ところが、昨秋に大きな転機が訪れました。それは保育実習です。私は事前指導の時に早くもこの実習の印象をくつがえされました。入学後の初めての実習ということで、きつと緩いにちがいないと樂觀視していましたが、実際はとてもハードなものでした。この厳しさのなかで、私は「保育者たる自分」を少しずつイ

メージするようになりました。

実習が始まると、それまで抱えていた「保育者になる」ことについての悩みは嘘のように霧散しました。これは実際に現場で実習をした人しか体感できないことでしょう。高校の職場体験では得られなかったものを得ることができたと私は感じました。言葉ではうまく表現できませんが、この経験を境に保育を志す気持ちが膨れ上がったこの実習を、私は生涯忘れることはないでしょう。辛い時にはこの感激を思い出し、新短幼教での勉強を頑張っていくつもりです。



絵・梅木瑞季

## 中四国保育学生研究会に参加して

二年次生

小河 美和子・塩田 佳奈  
多田 朱里・田知行 愛美  
美藤 真紀

私たち斎藤総研は、二〇一三年十一月三十日に行われた中四国保育学生研究会で、「子どもの好奇心と豊かな感性を育てる科学あそび」という研究テーマで発表しました。発表日までに、学内にある親子交流広場にこたんにて科学あそびの実践を行い、子どもの反応や保護者の感想を取り入れながら研究を進めました。



また、発表直前には幼児教育学科の先生方にお願いで、私たちのプレゼンを指導していただきました。大会当日は、自分たちが研究してきたことを多くの方々に聞いていただくことができました。会場からの質問の多さに、私たちの科学をテーマとした研究がいかに重要であるかを改めて実感することができました。発表を無事に終えることができました。発表を無事に終えることができたのは、ご指導くださった多くの先生方やこたん利用者の皆様、スタッフの方々の協力のおかげにほかなりません。そして、この五人が総研のメンバーだったからこそだと、感謝の気持ちでいっぱいです。

これから私たちは保育者となりませんが、今回の研究を生かして様々なことに取り組んでいきたいと思えます。このような機会をいただきありがとうございます。



# 看護学科

## 看護研究発表会を終えて

四年次生（二期） 林 優花子

平成二十五年七月十六日に四年制大学となつて初めての「看護研究発表会」が開かれました。看護学部四年生が一人一つの研究成果を発表しました。口演発表と示説発表に分かれ、それぞれが試行錯誤して作成したスライドやポスターを用いて、一人七分間の発表を行いました。当日は教員や学生、実習施設の指導者の方々にも参加していただき、積極的に意見交換が行われました。約一年半の研究成果をこのような場で発表することができ、さらに学びを深められたことを嬉しく思います。

発表会を開催するにあたり、私は看護研究委員として活動してきました。事前準備や当日の進行など多くの役割がありましたが、四年生の仲間の協力を得て、チームワークによって発表会を成功させることができましたと思っています。また、一人一つの



研究をやり遂げることは、今後の看護職としての職務にも非常に役立つものになったと感じています。

## 先輩と語る会

三年次生 大西 杏奈・武石 健太郎  
二宮 鈴・前田 紗希

九月十二日に学術交流センターの交流ホールにて先輩と語る会を行いました。保健師、助産師、看護師として働かれている四人の先輩方にお越しいただき、貴重なお話をうかがいました。前半は、先輩方から、職場紹介や仕事内容についてのお話がありました。

後半は、四つのグループに分かれ、交流会を行い、学生の疑問や不安に対して助言をいただきました。短い時間ではありましたが、実際に働いている方のお話を聞くことができ、実習や国家試験就職、仕事のことなどについても詳しく丁寧に教えていただき、とても充実した会となりました。先輩方からのお話を聞き、自分の将来について考える大きなきっかけにもなったと思います。今回の会で得たものからこの先の大学生活に十分に生かしていきたいと思っています。



## 十周年記念合同サテライト・デイ開催

教授 木下 香織

平成十六年に活動を開始した、学生・教員で企画・運営する地域密着型介護予防プログラム「サテライト・デイ」が十周年を迎えた記念行事として、市内三地区の参加者の皆さまを大学にお招きして合同サテライト・デイを開催しました。

午前は記念式典として、十年間のサテライト・デイを振り返り、協力組織の皆さまへ感謝状の贈呈、本館の見学を兼ねたクイズラリーを行いました。午後は、岡山フルートカルテット（新見公立短期大学幼児教育学科教授安達雅彦氏ほか三名）によるフルート演奏、新見市在住の落語家で笑い療法士の悠遊亭無彩氏の講話を楽しんでいただきました。約八十名がご参集



くださり、笑顔の絶えない楽しい時間を過ごしていただきました。生活支援看護学実習中の看護学部三年生十六名も運営に参加し、十年間の歴史と地域との温かい交流を肌で感じる経験となりました。

## 看護学セミナーを終えて

一年次生 村上 優佳

第四回看護学セミナーを十一月八日に合同講義室にて行いました。今年のテーマは「世界に視野を広げた看護職への挑戦」でした。青年海外協力隊として世界で活躍された二名の講演を聞かせていただきました。実際に

青年海外協力隊として活躍された方の講演を聞いて海外で働くことに興味を持つことが出来た人も多くいます。私自身、元々海外で働くことに興味があったので、どのような看護活動をするのかなどを聴くことで、より具体的に考えていくことが出来るようになりました。グローバル化が進んでいる今、世界に出て仕事をする事は決して珍しいことではありません。世界で今何が起きているのかを知り、自分の持つ力を生かすことが出来るようになるためにも、今学ぶべき看護をしっかり身に付けようと思います。



# 同窓会のコーナー

## ●名称変更！「卒業生の集い」から「ケアネットに集い」へパワーアップ！

地域福祉学科六期生 道繁 由香里



この度、「卒業生の集い」から「ケアネットに集い」に名称を変更いたしました。今後の活動を卒業生に限らず、友人や地域の人にも参加していただき、短大から地域へ情報発信ができればと思っています。「に集い」からケアについて考える機会を作っていきたいと思います。「ケアネットに集い」は十一月四日に今年度第三回目の会を開催しました。今回は地域福祉学科科長の岡京子先生に「地域で考える介護福祉」を聞かせていただき、今後の介護のあり方や、人生のエンディングについて改めて考える機会になりました。今回の開催では、今回のテーマや日頃抱えていた悩み

同窓生や職場・地域の友人等誘い合せて参加してください。

## ●幼児教育学科二十二期生同窓会

幼児教育学科二十二期生 五藤 郁香

卒業して十年という節目の二〇一三年、私たち幼教三十二期生は七月十四日に大きな同窓会を開催しました。それまでも、「幼2の日」という小さな同窓会の日を決め、卒業後も会える人で集まってはいましたが、卒業後、初めて顔を合わす友もいて、やはり「大きな同窓会」ならではのよさを実感しました。

出席者の中にはお母さんになっていく人もたくさんいて、十年という年月を感じたことでした。それでも会えば昔に戻り、懐かしい話に花が咲き楽しい時間になりました！

次は三年後に島根県で開催予定！またみんなに会えるのが楽しみです。

### 島根支部会

## ●島根支部会に参加して

看護学科二十二期生 藤原 千亜希

私は今回初めて支部会に参加させていただきます。

参加されていた方は学科も年代もばらばらでした。しかし、いろいろな方とお話をさせてもらう中で、同じ看護学科の方の経験や仕事についてなどはもちろん、幼児教育学科の方からは、これから子どもの保育園入園を考えていた私にとっては、保育園入園についてのアドバイスなど

ももらえたりしました。また、幼児教育学科卒業の先輩の子どもさんと私の姪が友達だという方もおられ、驚きました。

初めての支部会でどのようなものか分からず最初はすごく緊張しましたが、懐かしい先生方とも会うことができとても楽しい時間を過ごすことができました。そして、他学科の方とも楽しくお話をさせていただくこともできました。また支部会が開催される時はぜひ参加させていただきたいと思っています。

### 愛媛支部会

## ●気持ちは学生時代のまま…？

幼児教育学科一期生 鴨川 和美

サイクリングしまなみ2013が開催された十月二十日(日)、今治で同窓会愛媛支部会が開かれました。あいにくの雨模様でしたが、同窓生十六名、学長はじめ大学関係者四名の出席でにぎやかな会になりました。それぞれ保育士、看護師、保健師など様々な職種についていて、大学時代の思い出話や近況報告などで打ち解け、知らぬ間に時が過ぎました。

振り返れば、三十年余り、先生方も事務局の方もとても親切で、学生一人一人にあたたかく接してくれたことを覚えています。

今年卒業生の子どもが入学したと聞き、感慨深いものがありました。今後大学が発展し、卒業生が地域で活躍してくれることを願っています。

### 倉敷支部会

## ●幼稚園教諭と演歌歌手

幼児教育学科十五期生 井上 幸子

「念すれば花開く」幼い頃から夢に見た幼稚園教諭として就職できてから早十八年。今でも勉強の毎日です。又、諦めきれなかったもう一つの夢を追いかけ演歌歌手「幸月美波」としてまがりなりにもデビューできて早十年。園長先生他、たくさんの方の後押しをいただき毎日忙しく充実した日々を楽しんでおります。デビュー曲「倉敷そして二人」は倉敷の観光キャンペーンソングとして取り上げられ観光大使もさせていただき「美作の女」「雨の倉敷」「岡山酒場町ブルース」の四枚のCDをリリースさせていた。とき、幼稚園教諭として頑張りながらご当地ソングを歌わせていただく演歌歌手として二足の草鞋を履き、生まれ育った地元を愛して行く事を信条とし皆様に可愛がられてここまで頑張る事が出来ました。新短卒業生ということで新見のお祭りやイベントにも毎回、ご依頼をいただき大好きな演歌を通して様々な方との素敵な出逢いをいただいております。家族や支えてくださる皆様方がいてくれるからこそ今の私があることを忘れず、これからも幼稚園の先生として子どもたちに歌の素晴らしさを伝えながら演歌歌手「幸月美波」は日々、精進して参りたいと存じます。



●卒業して二十四年

看護学科八期生 土井直巳

八期生も卒業して二十四年。十四年振りに躍進を遂げる我が母校で八月十七日に同窓会を開催しました。多忙な中、東京から宮崎まで二十三名の出席があり、本当に楽しい時間を過ごしました。いつまでも若々しく！看護師・保健師を現役で頑張っている友、子育てに奮闘している友、主婦を楽しんでいる友。そこにはいろいろなことを乗り越え「生き生きした顔がありました。近況紹介では大いに笑いあり、ちよつぱり涙あり。その頑張りにお互いがたくさん涙あり。ワーッと勇気をもらいました！昔話で盛り上がりながら、懐かしい校舎を回り、すっかり変わった校舎や体育館に驚きました（笑）。母校に集い、改めて旧友のありがたさ・素晴らしさを実感し、胸がいっぱいになりました。アラフォー真つ只中の私たちが今後の更なる活躍を約束し、次回同窓会は担任の松本幸子先生の故郷（長崎）での開催を誓いました!!



絵・高下好



KENYA STUDY TOUR 2013

看護学科二年次生

野崎雄飛  
上野紗英

私たちがケニアに行った動機は、他大学の学生との交流や、海外に行くことで視野を広げ、将来のことを考えるきっかけになると考えたからです。

三泊四日のマサイ族ホームステイ・ケニア最大のスラム街・ナイル川・ビクトリア湖・JICA・UNEP・日本大使館・ウガンダの王宮・国会議事堂・オバマ大統領の祖母宅等を訪れました。またケニアの学生・現地の方との交流や、現地の環境問題について学びました。



実際に現地を訪れて、道端街中にごみ山が見られ、悪臭が漂って

おり、不衛生だと感じました。また、海外で働くという将来への道も広がりました。課題も多く見つかり、とても刺激になったスタデ

イ・ツアーになったと感じました。

思いっぴいアメリカ研修

看護学科一年次生

蔭山 すすか

私は、九月四日〜九月十六日の十三日間、

アメリカ研修に参加しました。短い期間でしたが、ホームステイや施設・病院の見学、アメリカの方々の交



流など、普通の個人旅行では中々出来ないとても貴重な経験をさせていただき、沢山の学びを得ることができました。マンハッタンなどでの観光もとても楽しかったです。私にとってこの十三日間は一生の思い出となりました。

アメリカ研修でお世話になったニューパルツの方々には感謝の気持ちでいっぱいです。もっと英語を上達させて、また必ず会いにニューパルツを訪れたいと思います。この経験を看護師になる上で役立てて行きたいです。

出会いからの学び

看護学科一年次生

野村 実穂

私たちは看護学部一年生五名と二年生四名は、平成二十五年一月七

日〜十一日まで、カンボジアスタディツアーに参加しました。参加前は、素敵な出会いがあるとは思っていませんでしたが、今回、素敵な出会いを体験することができました。最初の出会いは、最高に美味しいバナナとの出会いでした。バナナ好きな私にとっては、日本のバナナと違ったモチモチとした食感や甘さが強いバナナは最高でした。

次に素敵な出会いがあったのは、CVSGが運営する支援センターでの学生との出会いでした。この研修でさまざまな場所で過ごす子どもたちとの出会いや家族を看る人たちとの出会いなど語りつくせないほどの出会いがあり、この出会いは、私にさらなる好奇心や関心を注ぐ機会となりました。これからは一生に残る思い出を求め、今後も新たな出会いを求めて活動していきたいと思います。



韓国学会発表

幼児教育学科講師 伊勢 慎

二〇一三年七月四日から六日にかけて韓国・梨花女子大学を会場に開催された環太平洋乳幼児教育学会に参加してきました。「保育士の実習生に対する実習指導姿勢」と題した、ポスター発表に挑戦しました。使用言語はもちろん英語です。

研究のエッセンスを簡単に紹介しますと、「学生の実習態度の変化は見られない」という結果への同意、「養成校と実習園の連携」について「今以上に関係作りを進めることが、実習にも良い影響を与える」こと、「その方法論が知りたい」という内容です。海外の研究者から鋭い質問をいただくなど、国際学会ならではの知的な刺激を体感することができました。

今後は、この研究成果を生かしながら養成校と実習先の連携を図っていく方法を模索しつつ、地域に貢献していきたいと思えます。



絵・藤井沙織



絵・栃本真希

受賞のお知らせ

看護学部看護学科の上山和子先生が、平成二十五年度備北保健所保健・衛生功労者表彰地域医療事業功労を受けられました。この表彰は、多年にわたり備北保健所管内において保健衛生事業発展のために献身的な活動を続けられた功績に対して贈られるものです。記して慶祝の意を表したいと存じます。



絵・香月美紀



絵・藤原梨紗

平成25年度 進路状況

(2月13日現在)

学部・学科	内訳	卒業者数 (人)	専門職 (人)	一般職 (人)	進学 (人)
看護学部看護学科 〔1期生〕		63	53 (3)	0	7
幼児教育 〔33期生〕		52	48 (2)	0	1 (1)
地域福祉 〔17期生〕		47	38 (1)	0	8

( ) 内は、希望しているが決定していない人数

編集後記

新見の地も厳しい寒さの続いた冬が通り過ぎ、街にはおひな様が並び春の兆しを感じる季節となりました。毎年この時期は、卒業そして入学、涙もありませんが、新天地に胸をときめかせる季節になります。今春は最初の看護学部生が学舎を巣立っていきます。また、四月には看護学部、幼児教育学科、地域福祉学科に加え、新設される大学院に看護学専攻の学生五人が新たに入学してきます。本学三十四年の歴史に新たなページを刻むこととなります。

先日、日刊紙に「どの時代に戻りたいか」という特集が掲載されました。答えは「大学」がトップで、その理由は、友人、勉学、恩師……。ともあれ学生時代が一番ということ。私も自身もその通りです。卒業して三十四年。

学生時代の志は今も……  
学歌「母なる流れ 新見川……」  
……初心を友よ 貴かん」  
同窓生の皆さん、時間を見つけ「新短坂」を登り、学生時代にタイムスリップしてみたいかがですか。

(吉田)

編集委員

委員長

- 池田 明史
- 武石 典明
- 栗本 一美
- 吉田 裕之
- 原田 之明